

全 体 報 告 書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
現状・課題	昨年度は、本事業に取り組むことで、市民や茶業関係者へと歴史ある手揉み釜炒り茶文化を知っていただくことの出来る資料やコンテンツ作りに取り組むことができた。嬉野の豊かな茶文化を今後も継承していくためには、引き続き、これらコンテンツや体験を通して更に手揉み釜炒り茶の輪を広げていく必要がある。また、高齢化が進み当時を知る人物も希少となっているため継続して早急に歴史調査、伝承を進めることで、日本茶を語る上で欠かすことの出来ない手揉み釜炒りという伝統的技術と文化を後世に継承していくことが出来ると考えている。
事業目的	・嬉野に根ざした茶文化を通じてシビックプライドを形成し、文化財登録を目指す。 ・前年度、調査を行ってきた中で、手揉み釜炒り茶の文化資料について不足している内容を、継続して調査し、ホームページや市施設内での常設展示を行うことで後世へと引き継ぐ。熊本、宮崎への研修を通して手揉み釜炒り技術・知識の底上げを行う。 ・茶業青年会や嬉野茶商工業協同組合などへの研修会を行い技術・文化の継承を進める。
事業概要	(1)調査研究事業 ・手揉み釜炒り茶の調査報告書作成 昨年度に引き続き有識者会議の実施や手揉み釜炒り茶文化の調査を行い不足している資料などの収集と昨年度の調査報告書について委員による監修を行っていただく。 ・宮崎県や熊本県へ嬉野釜炒茶協議会と共に視察調査を行い、他地域の手揉み釜炒り茶技術の習得及び、嬉野式と青柳式の違いについて詳細な調査を行う。 (2)保護継承事業 ・後継者育成のため嬉野茶業青年会との研修会や嬉野茶商工業協同組合との研修会を開催する。 ・嬉野市内中学校へ昨年度作成したパンフレットの配布を行い手揉み釜炒り茶への関心を高める。市内の学生に向けて出前事業を行い若い方にもっと興味を持っていただく。 (3)発信等事業 ・まとめた報告書については市のＨＰやうれしの茶交流館「チャオシル」での常設展示を行う。
事業全体の成果・効果	昨年度に不足していた内容を継続して調査・精査し、視察、資料収集、釜の製造や聞き取り調査などを追加で行うことで、調査報告書に厚みを持たせることが出来た。次年度では、この報告書を元に嬉野釜炒茶協議会と共に、県もしくは国の登録無形民俗文化財への具申を行う事としている。 昨年度に引き続き、嬉野茶業青年会と更に嬉野茶商工業協同組合より2名参加での合同研修会を通して、手揉み釜炒り茶技術の伝承活動を実施した。今年度までは、独自での開催であったが、今後は嬉野の毎年開催予定の茶市イベントに組み込む事により定着化を計画している。 市内全ての中学校で出前授業を実施し、また参加者への釜炒りパンフレットを配布。手揉み体験を通じて、若い方の手揉み釜炒り茶への関心を高めることができた。学校側からの反応も上々であったため、来年度も継続して取り組む。 これら実施内容をまとめた報告書については、昨年度に引き続きうれしの茶交流館「チャオシル」にて常設展示を行い、多くの方に見ていただけるようにする。

事業別報告書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
区分	(1) 調査研究事業
事業内容	(事業概要) ①有識者検討会の開催 年3回 ②文献・実施調査
	(実施項目・詳細) ①有識者検討会の開催 年3回 昨年度設置を行った嬉野釜炒り茶文化継承検討委員会による検討会の実施 ②文献・実地調査 現在も残る釜炒り施設や文献・実地、聞き取りによる調査。次年度も引き続き不足している内容について調査を行いつつ、昨年度調査を行った内容も含めて委員の皆様へ監修していただき、調査報告書をまとめた。 ・昨年度取り組むことができなかった、地区の老人会への聞き取りを行った。 ・手揉み釜炒り製法は、時代によって蒸しや炒りとの折衷法など変化してきた経緯がある。これらの製法について整理を行った。 ・炒り釜の図面化と製作手順のマニュアル化を進め、嬉野式唐釜を後世に引き継げるように取りまとめを行った。 ・嬉野釜炒り茶協議会員と共に、青柳式の残る宮崎県や熊本県へ現地調査を行い、他地域との比較調査を行った。 ・昨年度は一般に向けてアンケートを行ったが、次年度は焦点を絞り、嬉野市内の茶農家に向けて委員会内で討議を行った内容についてのアンケートを行った。
成果・効果	①有識者検討会の開催 年3回 昨年度設置を行った嬉野釜炒り茶文化継承検討委員会による検討会の実施 今年度は、3回(8月8日、12月23日、3月3日)有識者による検討会を開催し、事業報告書についての協議を行った。報告書内での、歴史事項や報告書の構成などについて協議を行い、報告書の作成を進めた。また、報告書内容についても適宜、委員の皆様へ配布を行い修正についてのご指摘をいただくことで委員の皆様による細かな指摘事項を取り込んだ報告書を作成することができた。 ②文献・実地調査 現在も残る釜炒り施設の3Dデータ撮影や九州管内の図書館に所蔵される文献調査、宮崎県、熊本県での水平式手揉み釜炒り茶との比較や聞き取りによる調査を行い、取りまとめを行った。昨年度調査を行った内容への追記も含めて委員の皆様へ監修していただき、調査報告書の作成を行った。 ・不動山地区の老人会への聞き取りを行い調査報告書に追記。 ・手揉み釜炒り製法は、時代によって蒸しや炒りとの折衷法など変化してきた経緯がある。これらの製法について整理を行い調査報告書に追記。 ・炒り釜の図面化と製作手順のマニュアル化を進め、嬉野式唐釜を後世に引き継げるように取りまとめを行い調査報告書に追記。 ・嬉野釜炒り茶協議会員と共に、青柳式の残る宮崎県や熊本県へ現地調査を行い、他地域との比較調査を行い調査報告書へ追記。 ・昨年度は一般に向けてアンケートを行ったが、次年度は焦点を絞り、嬉野市内の茶農家それぞれに向けて委員会内で討議を行った内容についてのアンケートを実施。また、各地区の区長に向けてもアンケートを実施し、地区毎の手揉み釜炒り茶の情報収集とマッピングを実施し、報告書へ追記。

事業別報告書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
区分	(2) 保護継承事業
事業内容	(事業概要) ①食文化の継承者の育成 ②食文化の継承のための食育活動等
	(実施項目・詳細) ①食文化の継承者の育成 手揉み釜炒り茶技術者の募集と育成。継続して嬉野茶業青年会と研修会を行い継承者の育成を行った。また同時に、今年度では、嬉野茶商工業協同組合との手揉み釜炒り茶についての研修会に取り組んだ。 ②食文化の継承のための食育活動等 嬉野市内の各中学校へ手揉み釜炒り体験会などの出前授業やパンフレット配布を行い、手揉み釜炒り茶について若い世代に興味を持っていただけるよう取り組んだ。
成果・効果	①食文化の継承者の育成 手揉み釜炒り茶技術者の募集と育成を目的として昨年度に続き、継続して嬉野茶業青年会と研修会を行い継承者の育成を行った。また、嬉野茶商工業協同組合にも研修会に参加いただき、後継者育成、文化継承に取り組んだ。今後は、勉強会を年1回開催予定のイベントに組み込むことで、継続して嬉野茶業青年会による手揉み釜炒り茶の製造に取り組んでいただけるような仕組みづくりを予定。 ②食文化の継承のための食育活動等 嬉野市内の全中学校へ手揉み釜炒り体験会などの出前授業やパンフレット配布を行い、手揉み釜炒り茶について若い世代に興味を持っていただけるよう取り組んだ。学校側からの反応も上々であったため、来年度も継続して取り組む予定としている。

事業別報告書

事業名称	うれしの釜炒り茶文化継承事業
区分	(3) 発信等事業
事業内容	(事業概要) ①食・文化関連施設等を活用した食文化の発信
	(実施項目・詳細) ①食・文化関連施設等を活用した食文化の発信 うれしの茶交流館「チャオシル」での調査報告書常設展示化
成果・効果	①食・文化関連施設等を活用した食文化の発信 昨年に続き、うれしの茶交流館「チャオシル」での調査報告書常設展示化を行っている。チャオシルでは、ディスプレイを利用して昨年制作した手揉み釜炒り茶動画を常時放映を行っている他、調査報告書については、ブースを設け来館されたどなたでも手に取っていただけるようにしている。今年度の取り組みにより修正を行った報告書については、昨年度に引き続き常設展示を行う。